

定期作況報告

平成28年10月
(10月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温および平均気温はともに平年より高かった。降水量は平年並であった（平年比81%）。日照時間は平年並であった（平年比103%）。

10月上旬：最高気温は平年並で、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より少なかった（平年比37%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比123%）。

10月中旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温および平均気温はともに平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比30%）。日照時間は平年並であった（平年比110%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年並で、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並であった。

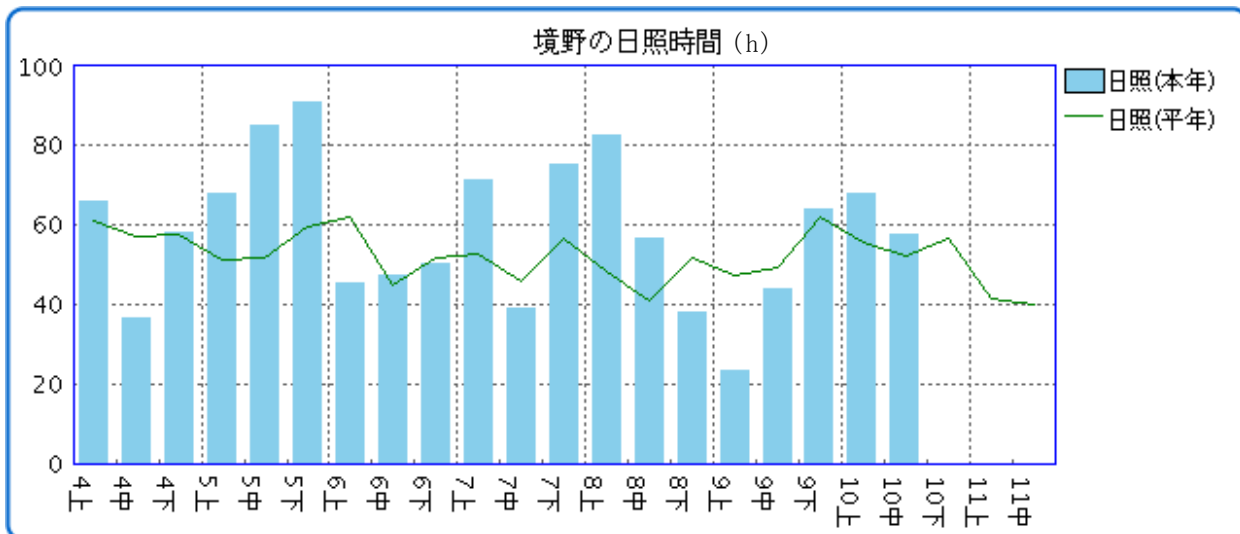
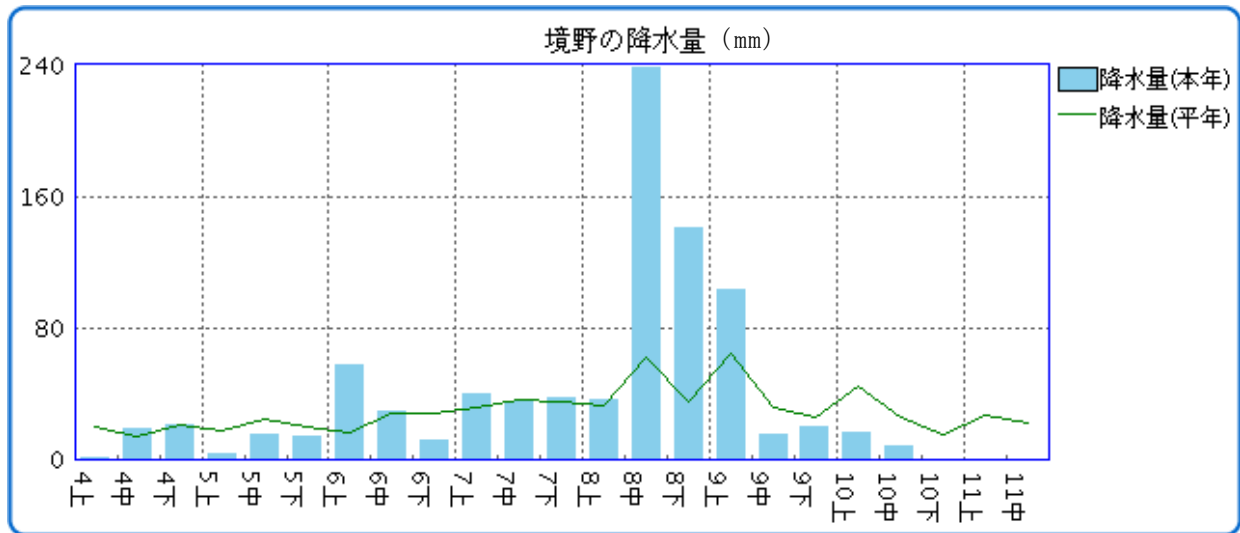
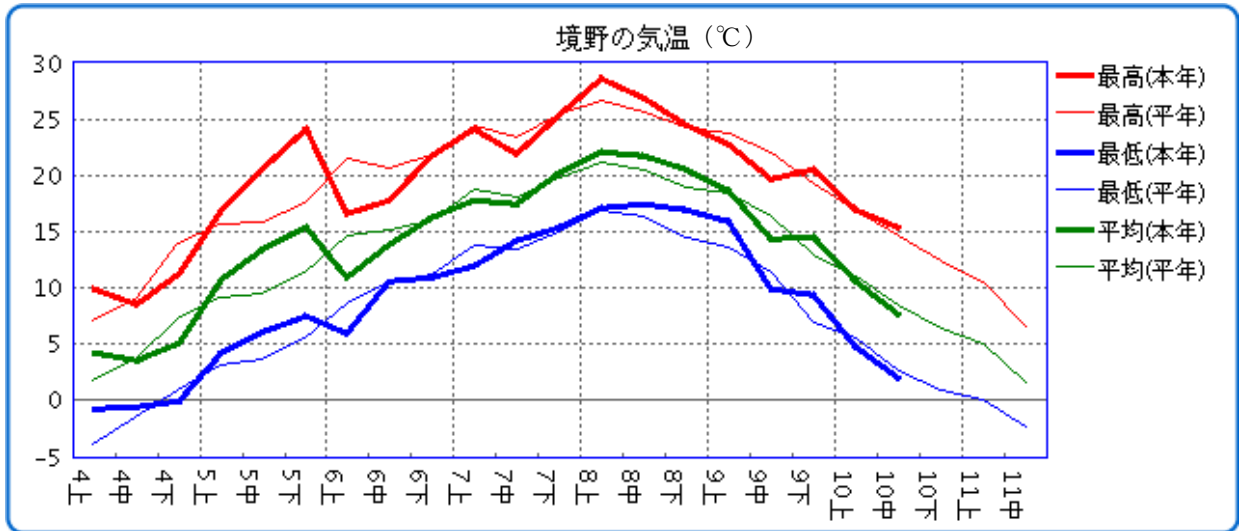
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	14.5	12.9	1.6	20.6	19.2	1.4	9.3	7.0	2.3
10月 月上旬	10.6	11.0	-0.4	16.9	16.9	0.0	4.7	5.5	-0.8
10月 中旬	7.6	8.5	-0.9	15.4	14.7	0.7	2.0	2.6	-0.6

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	20.0	24.8	-4.8	64.0	61.9	2.1
10月 月上旬	16.5	44.4	-27.9	68.0	55.4	12.6
10月 中旬	7.5	25.2	-17.7	57.7	52.3	5.4

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用)

作 況：やや不良

事 由：収穫期は平年より1日早い9月23日であった。収穫時の稈長は平年より短く、子実の熟度は黄熟初期と平年並で、総体の乾物率は平年より低かった。乾物茎葉重および乾物雌穂重は平年よりやや少なく、乾物総重ならびに推定TDN収量は、いずれも平年比93%と平年よりやや少なかった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月・日)	9.23	9.24	△1
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期	-
稈長(cm) (9月20日)	247	279	△32
生総重(kg/10a)	6703	6571	132
乾物茎葉重(kg/10a)	900	953	△53
乾物雌穂重(kg/10a)	943	1024	△81
乾物総重(kg/10a)	1842	1977	△135
同上平年比(%)	93	100	△7
推定TDN収量(kg/10a)	1325	1425	△100
同上平年比(%)	93	100	△7
総体の乾物率(%)	27.5	30.2	△2.7
乾雌穂重割合(%)	51.2	51.7	△0.5
有効雌穂割合(%)	100.0	99.3	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 大豆

作 況：不良

事 由：登熟は遅れ、成熟期は平年より9日遅い10月2日であった。百粒重は平年よりやや重かったが、着莢数、一莢内粒数とも平年より少なく、子実重は平年比77%と低収であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	10. 2	9. 23	9
主茎長(cm) (成熟期)	66.0	72.9	△6.9
主茎節数(節) (成熟期)	10.7	11.2	△0.5
分枝数(本/株) (成熟期)	5.2	5.3	△0.1
着莢数(個/株) (成熟期)	61.1	69.3	△8.2
一莢内粒数	1.76	1.87	△0.11
子実重(kg/10a)	291	376	△ 85
同上平年比 (%)	77	100	△ 23
百粒重 (g)	37.9	36.2	1.7
屑粒率 (%)	1.4	0.9	0.5

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 小豆

作況：不良

事由：登熟は遅れ、成熟期は平年と比べ「サホロシヨウズ」で9日、「エリモシヨウズ」で6日遅かった。両品種ともに着莢数、一莢内粒数および百粒重は平年を下回り、子実重は「サホロシヨウズ」で平年比64%、「エリモシヨウズ」で平年比67%と著しい低収であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.26	9.17	9	9.29	9.23	6
主茎長(cm) (成熟期)	74.4	88.6	△14.2	77.1	75.3	1.8
主茎節数(節) (成熟期)	13.4	13.9	△0.5	14.6	14.3	0.3
分枝数(本/株) (成熟期)	2.4	4.2	△1.8	3.2	4.0	△0.8
着莢数(莢/株) (成熟期)	48.8	56.7	△7.9	51.6	57.4	△5.8
一莢内粒数	5.40	5.85	△0.45	6.04	6.40	△0.36
子実重(kg/10a)	260	405	△145	281	422	△141
同上平年比(%)	64	100	△36	67	100	△33
百粒重(g)	14.9	15.5	△0.6	14.4	14.6	△0.2
屑粒率(%)	7.6	2.0	5.6	9.8	2.5	7.3

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、24年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

4) 菜豆 作況：不良

事由：一莢内粒数は平年並であったが、着莢数と百粒重が平年を下回り、子実重は平年79%と低収であった。なお、成熟期前後の高温と多雨により腐敗粒と色流れ粒が多発し、屑粒率は平年より著しく高かった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
着莢数(莢/株) (成熟期)	18.1	20.8	△ 2.7
一莢内粒数	3.05	3.02	0.03
子実重(kg/10a)	271	343	△ 72
同上平年比(%)	79	100	△ 21
百粒重(g)	62.3	71.1	△8.8
屑粒率(%)	72.1	7.4	64.7

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

5) ばれいしょ 作況：やや不良

事由：「コナフブキ」の枯ちょう期は平年より2日早い10月2日であった。上いも数が平年を下回り、上いも重は平年比95%であった。9月下旬の最低気温が高かったためでん粉価は平年を下回り、でん粉重は平年比92%であった。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちょう期 (月.日)	8.26	9.1	△6	10.2	10.4	△2
上いも数(個/株)	9.9	11.0	△1.1	9.6	10.8	△1.2
上いも平均重(g)	105	94	11	111	105	6
上いも重(kg/10a)	4583	4543	40	4747	4992	△245
同上平年比(%)	101	100	1	95	100	△5
でん粉価(%)	14.0	14.8	△0.8	21.3	21.9	△0.6
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	964	1046	△82
同上平年比(%)	—	—	—	92	100	△8

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

6) てんさい

作 況：不良

事 由：収穫は平年より1日早い10月19日に行った。根重は、根腐症状が進行したため（データ未記載）平年を下回った。根中糖分は、9月上旬まで最低気温が高かった影響を受けて9月20日時点で平年を下回っていたが（前報では欠測のため、後日追加調査）、9月下旬も平年より最低気温が高かったため、引き続き平年を下回った。これらの結果、糖量は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ（参考）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
根中糖分（9月20日）	14.43	14.83	△0.40	15.04	15.14	△0.10	14.63	14.65	△0.02
茎葉重 （kg/10a）（10月20日）	4110	4780	△670	4980	5223	△243	3666	4313	△647
根重 （kg/10a）（10月20日）	6720	7329	△609	6890	7437	△547	5600	6628	△1028
根中糖分 （%）（10月20日）	16.59	17.17	△0.58	17.19	17.66	△0.47	16.39	17.39	△1.00
糖量 （kg/10a）（10月20日）	1115	1258	△143	1184	1313	△129	947	1153	△206

注1）平年値は前7か年中、平成26年（最豊）、22年（最凶）を除く5か年の平均。

注2）直播「リッカ」は参考品種、平年値は前6か年の平均。

注3）9月20日の根中糖分は機器故障のため欠測値だったので、本報に記載した。

7) 牧草(チモシー)

作況: 平年並

事由: 3番草の収穫は平年より6日早い9月29日に行った。草丈は平年より3cm高かった。8月中旬～9月上旬の降水量が平年より極めて多かったため、乾物率は平年を大きく下回った。このため、生草収量は平年より多かったが、乾物収量は平年比94%とやや少なかった。1～3番草の合計乾物収量は、平年比102%と平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	9.29	10.5	△6
病害罹病程度	3番草	2.0	3.5	△1.5
草丈(cm)	3番草	48	45	3
生草収量(kg/10a)	3番草	945	623	322
	1～3番草合計	4878	4149	729
乾物率(%)	3番草	18.0	29.9	△11.9
乾物収量(kg/10a)	3番草	170	181	△11
	1～3番草合計	953	931	22
同上平年比(%)	3番草	94	100	△6
	1～3番草合計	102	100	2

注1) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。